

経済産業省委託

令和2年度産業標準化推進事業委託費

(戦略的国際標準化加速事業：

産業基盤分野に係る国際標準開発活動)

アクセシブル社会への実装を加速するための国際標準化

成果報告書

令和3年2月

公益財団法人共用品推進機構

国立研究開発法人産業技術総合研究所

目 次

1. 事業目的・事業概要	2
2. 令和2年度の実施体制及び事業概要	3
2.1 実施体制	3
(1) 研究体制	3
(2) 委員会構成（名簿）	4
2.2 実施スケジュール	7
(1) 委員会開催状況	7
(2) 事業期間	8
2.3 事業概要	9
(1) TC173 におけるデザイン要素規格	9
(2) TC159/WG2/SC3、SC4 及び SC5 における共通基盤規格	9
(3) 国内検討委員会の設置	10
(4) 欧州連携	10
(5) 報告書の作成	10
3. 事業実施内容	11
3.1 TC173 におけるデザイン要素規格	11
3.2 TC159/WG2/SC3、SC4 及び SC5 における共通基盤規格	15
3.3 欧州連携	23
附属資料	24

1. 事業目的・事業概要

アクセシブルデザイン（AD）の国際標準化は、ISO/IEC ガイド 71 を基に TC173 及び TC159 において、表示、操作性及びコミュニケーションの「複数の製品に共通する規格」を作成し、さまざまな製品をアクセシブルにすることが可能になってきているが、本格的にアクセシブルな社会にむけて AD 規格を多くの製品に実装させるためには、TC173 及び TC159 において下記の規格を新たに国際規格化する必要がある。

TC173 では、根幹である障害及び高齢当事者のニーズを把握するため、以下の国際規格を新規提案し、過年度に提案した以下の国際規格開発を継続した。

【新規提案】 1 件

(1) アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

【継続規格開発】 1 件

(1) 視覚障害者における取り扱い説明書

ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)の 25.2 Instructions for use(取扱説明)及び Annex

TC159 では、未開発である以下 3 件の国際標準化を行うことにより、アクセシブル社会への AD 規格の実装を加速させる。また、過年度に提案した以下の国際規格開発を継続した。

【新規提案】 3 件

(1) 高齢者・障害者配慮設計指針ー視覚表示物ー色の組合せ方法ー第 2 部:色弱とロービジョン/24505

(2) 高齢者・障害者配慮設計指針ー視覚表示物ー色の組合せ方法ー第 3 部:色の組合せ方法規格の使用に関する一般通則(仮称)/24505

(3) TR 22411 第 2 版ー第 2 部: ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデザインガイドライン(仮称)

【継続規格開発】 2 件

(1) 高齢者・障害者配慮設計指針ー消費生活用製品の操作性/23979

(2) TR 22411 第 2 版ー第 1 部: ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデータ集

日本国内のアクセシブルデザイン（AD）製品市場はすでに 3 兆円を超えている。継続的な AD 市場規模調査（共用品市場規模調査）により、該当する製品の波及効果を数値化する。また、当事者に行う質的調査では、AD 製品の利用状況を定量化し該当する製品の配慮事項を明らかにすることで継続的に障害のある人や高齢者の利用状況を把握する。これらを TC173 に関する国際標準化事業の K P I に設定する。

また、TC159 では、AD を総合的に実践するためには、個別の規格単体のみではなく、必要に応じて複数を組み合わせて製品設計及び評価などを行う必要がある。このような規格の利用を推進するためには、それぞれの規格を連携させ実践方法を記載する新しい規格が必要である。さらに、これまでの関連規格も引用し、より広い製品へ実装可能とする必要がある。

増えつつある AD 規格を用いた AD 設計及び評価のプロセスを明確化し、多くの企業が製品・サービス・環境において AD の観点を盛り込んだ設計や評価を効率行うことが可能となれば、設計及び評価のプロセスが短縮され、国際的にも優位な展開が可能となる。

本事業ではAD製品設計及びその評価方法の総合的な実践方法の構築を行い、開発する国際標準は、個別の製品のAD設計及び評価を効率良く実践するために活用できるようにする。また、高齢者・障害者配慮等の進展を目的とした国際標準開発のため、KPIとして規格引用（予定含む）、又は規格に基づいた製品及び環境設計の実績例、関連事象を実施するための技術相談事例、関連するISOの規格データが入っているデータベースのアクセス数を設定し継続的に把握する。

2. 令和2年度の実施体制及び事業概要

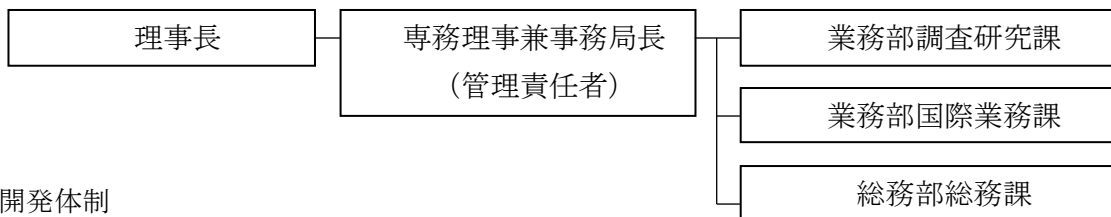
2.1 実施体制

(1) 研究体制

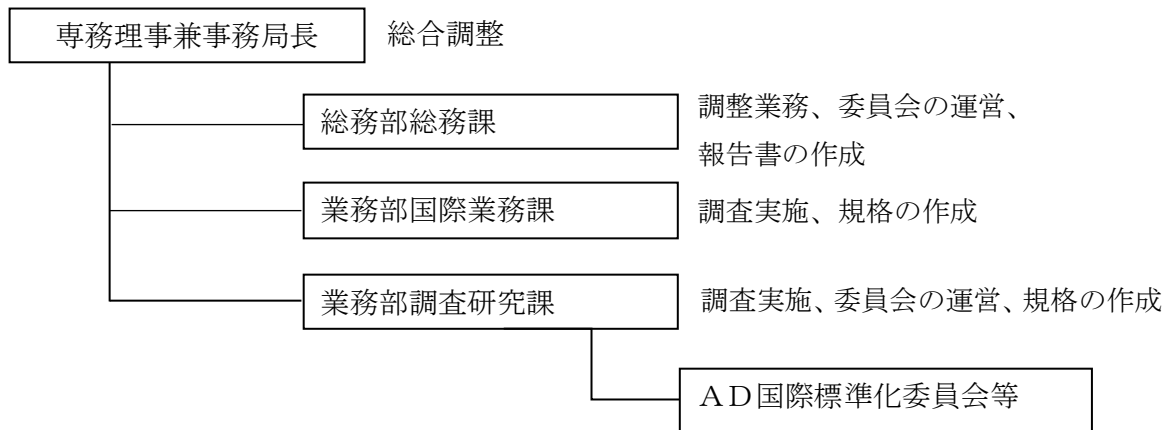
【研究機関A：公益財団法人共用品推進機構】

- (a) ISO/TC173/SC7における国際規格案の作成
- (b) ISO/TC159における国際規格案の作成
- (c) 国内委員会の設置・運営
- (d) 欧州等連携

①管理体制



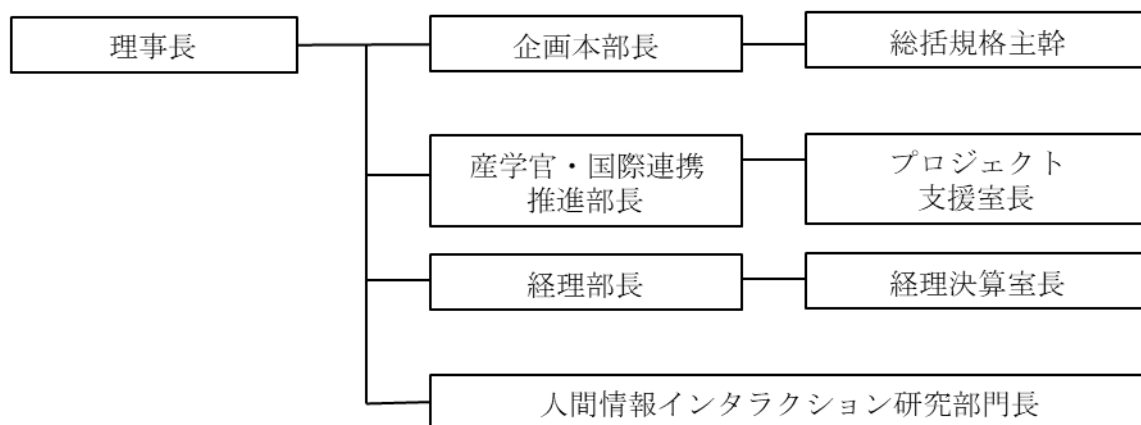
②規格開発体制



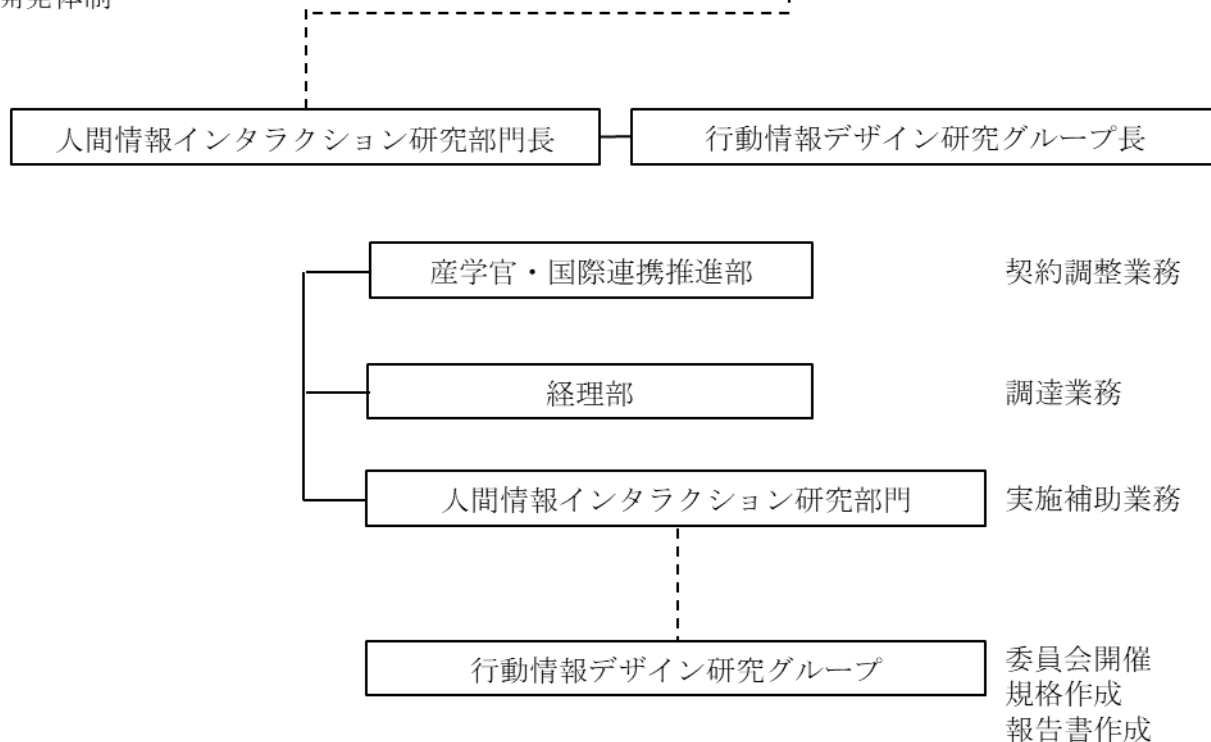
【研究機関B：国立研究開発法人産業技術総合研究所】

- (a) ISO/TC159/SC3、SC4 及び SC5 の国際規格案作成と国際審議委員会運営
- (b) ISO/TC173/SC7 国際規格案作成に係る技術的検討
- (c) 欧州等連携

①管理体制



②研究開発体制



(2) 委員会構成 (名簿)

(a) AD国際標準化委員会 (本委員会)

番号	種別	氏名	所属
1	委員	青木 和夫	日本大学
2	委員	小川 光彦	一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
3	委員	児山 啓一	公益社団法人日本サインデザイン協会
4	委員	吉田 哲朗	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
5	委員	澤田 晋一	元独立行政法人労働安全衛生総合研究所
6	委員	大竹 浩司	一般財団法人全日本ろうあ連盟 (2020年10月まで)
	委員	小椋 武夫	一般財団法人全日本ろうあ連盟 (2020年11月から)

番号	種別	氏名	所属
7	委員	清水 壮一	一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会
8	委員	桐原 尚之	全国「精神病」者集団
9	委員	芳賀 優子	社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会
10	委員	中田 誠	一般社団法人日本玩具協会
11	委員	澤田石昌幸	一般財団法人家電製品協会
12	委員	藤本 浩志	早稲田大学
13	委員	酒井 和家	公益社団法人日本包装技術協会
14	委員	持丸 正明	国立研究開発法人産業技術総合研究所
15	委員	長田 信一	公益財団法人テクノエイド協会
16	委員	山内 繁	特定非営利活動法人支援技術開発機構
17	委員	山田 肇	東洋大学、特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム
18	委員	横井 孝志	日本女子大学
19	関係者	加藤 晃治	経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室
20	関係者	若林 究	経済産業省産業技術環境局国際標準課
21	関係者	米田 儀子	一般財団法人日本規格協会
22	関係者	若山まゆ子	一般財団法人日本規格協会
23	関係者	佐川 賢	国立研究開発法人産業技術総合研究所
24	関係者	伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
25	事務局	倉片 憲治	国立研究開発法人産業技術総合研究所（早稲田大学）
26	事務局	坂 勝美	国立研究開発法人産業技術総合研究所
27	事務局	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
28	事務局	金丸 淳子	公益財団法人共用品推進機構
29	事務局	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構

(b) TC173/SC7 国内検討委員会

番号	種別	氏名	所属
1	委員	青木 和夫	日本大学
2	委員	吉田 哲朗	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
3	委員	服部 芳明	一般財団法人全日本ろうあ連盟（2020年10月まで）
	委員	小椋 武夫	一般財団法人全日本ろうあ連盟（2020年11月から）
4	委員	中田 誠	一般社団法人日本玩具協会
5	委員	早乙女真由美	一般財団法人家電製品協会
6	委員	酒井 和家	公益社団法人日本包装技術協会
7	委員	五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会
8	委員	山内 繁	特定非営利活動法人支援技術開発機構
9	委員	山田 肇	東洋大学、特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム
10	委員	辻 圭介	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
11	委員	長谷川三枝子	公益社団法人日本リウマチ友の会
12	委員	万場 徹	公益社団法人日本通信販売協会

番号	種別	氏名	所属
13	委員	水島 昌英	情報通信アクセス協議会
14	委員	逢坂 忠	社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
15	委員	三田 大輔	一般財団法人日本文化用品安全試験所
16	委員	上手 俊彦	一般財団法人日本品質保証機構
17	関係者	加藤 晃治	経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室
18	関係者	若林 究	経済産業省産業技術環境局国際標準課
19	関係者	米田 儀子	一般財団法人日本規格協会
20	関係者	若山まゆ子	一般財団法人日本規格協会
21	関係者	伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
22	事務局	倉片 憲治	国立研究開発法人産業技術総合研究所（早稲田大学）
23	事務局	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
24	事務局	金丸 淳子	公益財団法人共用品推進機構
25	事務局	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構

(c) TC159 国内検討委員会

番号	種別	氏名	所属
1	委員	青木 和夫	日本大学
2	委員	渡部 安世	一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
3	委員	小椋 武夫	一般財団法人全日本ろうあ連盟
4	委員	山崎 友賀	一般財団法人家電製品協会
5	委員	五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会
6	委員	古澤 真之	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
7	委員	笹野 潤	一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会
8	委員	逢坂 忠	社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
9	委員	荒浜 英夫	一般社団法人電子情報技術産業協会
10	委員	郷家 和子	帝京大学
11	委員	中野 美隆	一般社団法人日本電機工業会
12	委員	中森 秀二	一般社団法人日本レストルーム工業会
13	委員	芳賀 優子	社会福祉法人国際視覚障害者援護協会
14	委員	河東 亮	一般社団法人日本ガス石油機器工業会
15	委員	和田 勉	社会福祉法人日本点字図書館
16	関係者	若林 究	経済産業省産業技術環境局国際標準課
17	関係者	米田 儀子	一般財団法人日本規格協会
18	関係者	若山まゆ子	一般財団法人日本規格協会
19	関係者	佐川 賢	国立研究開発法人産業技術総合研究所
20	事務局	伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
21	事務局	近井 学	国立研究開発法人産業技術総合研究所
22	事務局	倉片 憲治	国立研究開発法人産業技術総合研究所（早稲田大学）

23	事務局	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
24	事務局	金丸 淳子	公益財団法人共用品推進機構
25	事務局	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構

2.2 実施スケジュール

(1) 委員会開催状況

(a) AD国際標準化委員会（本委員会）

【報告・検討事項】

第1回：令和2年9月14日（月）

1) 令和2年度全体事業計画について

2) 各事業計画（案）及び各事業におけるスケジュール等について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

①ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)の25.2 Instructions for use(取扱説明)及びAnnex

②アクセシブルデザイン-当事者ニーズ調査共通設計指針

2)-2 TC159/SC4 及び SC5 関連事業

①WI 24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part 2: For people with colour deficiencies and for people with low vision” (高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－色の組合せ方法－第2部:色弱とロービジョン)

②WI 24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part 3: General guidance on the use of colour-combination standards” (高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－色の組合せ方法－第3部:色の組合せ方法規格の使用に関する一般通則)

③ISO/CD 23979 Ergonomics - Accessible design - Ease of operation(高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活用製品の操作性)

④TR 22411 第2版－第2部:ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデザインガイドライン(仮称)

第2回：令和3年2月4日（木）

1) 令和2年度全体事業報告について

2) 各事業報告(案)及び各事業におけるスケジュール等について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

①ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)の25.2 Instructions for use(取扱説明)及びAnnex

②アクセシブルデザイン-当事者ニーズ調査共通設計指針

2)-2 TC159/SC4 及び SC5 関連事業

①WI 24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part 2: For people with colour deficiencies and for people with low vision” (高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－色の組合せ方法－第2部:色弱とロービジョン)

②WI 24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part 3: General guidance on the use of colour-combination standards” (高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－色の組合せ方法－第3部:色の組合せ方法規格の使用に関する一般通則)

③ISO/CD 23979 Ergonomics - Accessible design - Ease of operation(高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活用製品の操作性)

④TR 22411 第2版－第1部:ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデザインガイドライン(仮称)

(b) TC173/SC7 国内検討委員会

【報告・検討事項】

第1回：令和2年9月17日（木）

- 1) 令和2年度全体事業計画について
- 2) 各事業計画(案)とスケジュールについて
- 2)-1 TC173/SC7 関連事業
- ① ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)の25.2 Instructions for use(取扱説明)及びAnnex
- ② アクセシブルデザイン-当事者ニーズ調査共通設計指針

第2回：令和3年1月25日（月）

- 1) ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)の25.2 Instructions for use(取扱説明)及びAnnex
- 2) アクセシブルデザイン-当事者ニーズ調査共通設計指針
- 3) 定期見直し（5年ごと）

(c) TC159 国内検討委員会

【報告・検討事項】

第1回：令和2年9月17日（木）

- ・ 令和2年度 TC159 全体事業計画と進捗について
- 1) 基本色領域に基づく色の組合せ法 ISO/NP 24505 - 2、3
- 2) 消費生活製品の操作性 ISO/CD23979
- 3) TR 22411 第2版-1 人間工学データ集
- 4) TR 22411 第2版-2 デザインガイドライン

第2回：令和3年1月26日（火）

- ・ 令和2年度 TC159 全体事業報告と進捗について
- 1) 基本色領域に基づく色の組合せ法/ISO/NP 24505-2、3
- 2) 消費生活製品の操作性/ISO/CD 23979
- 3) TR 22411 第2版-1 人間工学データ集
- 4) TR 22411 第2版-2 デザインガイドライン 他2件の定期見直し等

(2) 事業期間

委託契約締結日から令和3年2月26日まで

2.3 事業概要

(1) TC173 におけるデザイン要素規格

(a) アクセシブルデザインー視覚に障害のある人々が利用する取扱説明書の作成における配慮事項

ISO/TC173/WG12 で審議中の「ISO/DIS/21856 Assistive products - General requirements and test methods(一般通則と試験方法)」の「25.2 Instructions for use(取扱説明)」及び Annex D に追加する方向で国際提案を行った。

(b) アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

TC173 に NWIP として国際提案した。

(2) TC159/WG2/SC3、SC4 及び SC5 における共通基盤規格

(a) NP 24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations

Part2: For people with defective colour vision and low vision(JIS 未提案、高齢者・障害者配慮設計指針ー視覚表示物-色の組合せ方法-第2部:色弱とロービジョン)

2020年5月19日に SC5 (第5分科委員会) セクレタリに Part2 の NP 提案書類を送付。7月29日付で“新規案件の Registered (登録済)”となっていたが、11月21日付で NP 投票が開始された。締め切りは2021年2月14日。

(b) WI 24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations

Part3:General guidance on the use of colour-combination standards (tentative)” (JIS 未提案、高齢者・障害者配慮設計指針ー視覚表示物-色の組合せ方法-第3部:色の組合せ方法規格の使用に関する一般通則)

新規提案準備を進めた。Part2 の投票後に提案を行う予定。

(c) CD 23979 “Ergonomics - Accessible design - Ease of operation ” (JIS 未制定、消費生活用製品の操作性)

コメントに対する対応と DIS (国際規格案) 原案を審議した。2021年2月に予定されているオンライン会議でコメント対応と DIS 原案の承認後、DIS 投票に向かう予定。

(d) WI TR 22411-1 “Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014” (ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のための人間工学データ)

ISO/PRF TR 22411 (DTR (技術報告書原案) 投票) が2020年11月に終了し、反対は1か国だけだったため、投票は可決した。各国から提出された編集的なコメントに対応して原案を修正し、2021年1月12日付で「ISO/TR 22411:2021 - Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014」のタイトルで発行に至った。Part1 の表記は以下の Part2 の提案時に変更を行う予定。

- (e) WI TR 22411-2 “Ergonomic design considerations for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014” (JIS 未制定、TR 22411 第2版—第2部: ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデザインガイドライン (仮称))

2008年に発行された同 TRの第2版の Part2 であり、デザインガイドラインについて記載する。次回の TC159 総会で Part2 のタイトルや構成について説明し、正式な業務項目として承認を得る予定。

(3) 国内検討委員会の設置

国内に全体の案件を審議するAD標準化検討委員会（本委員会）を設置し、TC173 に関する案件は TC173 国内検討委員会、TC159 に関する案件は TC159 国内検討委員会を設置して審議を行った。

(4) 欧州連携

TC173 及び TC159 の各国際会議に出席した。欧州等各関係機関等と連携を図り、日本提案のAD規格案件に対する説明及び議論の整理を行った。

(5) 報告書の作成

上記(1)～(4)の結果を報告書として取りまとめた。

3. 事業実施内容

3.1 TC173 におけるデザイン要素規格

本事業では、アクセシブルデザイン要素における ISO 規格原案の開発、作成を行ってきた。JIS(日本産業規格)及び本事業における調査研究結果をもとに、ISO/IEC/JTAG 及び ISO/TC173(福祉用具)/SC7(アクセシブルデザイン)に対して国際標準化を提案してきた。

関連規格としては、平成26年から平成28年度までに下記の6件の規格提案を行い発行されている。

- ①ISO/IEC Guide71:2014 “Guide for addressing accessibility in standards” (規格におけるアクセシビリティ配慮のためのガイド) (ISO/IEC/JTAG)
- ②ISO 17069:2014 “Accessible design - Consideration and assistive products for accessible meeting” (アクセシブルデザイン—アクセシブル会議の留意事項及び支援製品) (ISO/ TC173/SC7/WG2)
- ③ISO 19026:2015 “Accessible design - Shape and colour of a flushing button and a call button, and their arrangement with a paper dispenser installed on the wall in public restroom” (アクセシブルデザイン—公共トイレの壁面の洗浄ボタン、呼出しボタンの形状及び色並びに紙巻器を含めた配置) (ISO/TC173/SC7/WG3)
- ④ISO 19028:2016 “Accessible design - Information contents, figuration and display methods of tactile guide maps” (アクセシブルデザイン—触知案内図の情報内容、形状及び表示方法) (ISO/TC173/SC7/WG5)
- ⑤ISO 19027:2016 “Design principles for communication support board using pictorial symbols “ (絵記号を使用したコミュニケーション支援用ボードのためのデザイン原則) (ISO/TC173/SC7/WG4)
- ⑥ISO 19029:2016 “Accessible design - Auditory guiding symbols in public facilities” (アクセシブルデザイン—公共施設における聴覚的誘導信号) (ISO/TC173/SC7/WG6)

上記に続き、令和2年度は、下記2件の規格案の審議を進めた。

- ①ISO/DIS 21856 “Assistive products-General requirements and test methods” (一般通則と試験方法)の25.2 Instructions for use(取り扱い説明)及びAnnex D アクセシブルデザイン—視覚に障害のある人々が利用する取扱説明書の作成における配慮事項
- ②アクセシブルデザイン—当事者ニーズ調査共通設計指針

次頁から、今年度の国際規格に関する事項について作業実績を報告する。

- ①ISO/DIS 21856 “Assistive products - General requirements and test methods” (一般通則と試験方法)の25.2 Instructions for use(取扱説明)及びAnnex D

関連 JIS は、JIS S 0043 アクセシブルデザイン—視覚に障害のある人々が利用する取扱説明書の作成における配慮事項 (2018年2月)。

この規格を抜粋して、ISO/TC173/WG12 で審議されていた「ISO/CD 21856 Assistive products - General requirements and test methods(一般通則と試験方法)」の「25.2 Instructions for use(取扱説明)」と附属書D(Guidelines for accessible information on assistive products)に追加した (下記目次参照)。

2021年2月現在、「ISO/DIS 21856 Assistive products - General requirements and test methods(一般通則と試験方法)」の「25.2 Instructions for use(取扱説明)」と附属書D(Guidelines for accessible information on assistive products)への加筆・修正はないが、本文の一部に確認が必要な箇所があり、継続して修正作業が行われている。

ISO/DIS 21856 Assistive products- General requirements and test methods

Foreword

Introduction

- 1 Scope
- 2 Normative references
- 3 Terms and definitions
- 4 General requirements
- 5 Materials
- 6 Emitted sound and vibration
- 7 Electromagnetic compatibility
- 8 Electrical safety
- 9 Overflow, spillage, leakage, and ingress of liquids
- 10 Surface temperature
- 11 Sterility
- 12 Safety of moving parts
- 13 Means to prevent falling out
- 14 Prevention of traps for parts of the human body
- 15 Folding and locking mechanisms
- 16 Carrying handles
- 17 Assistive products which support or suspend users
- 18 Assistive products / parts of assistive products on purpose-built devices
- 19 Surfaces, corners, edges and protruding parts
- 20 Hand held assistive products
- 21 Small parts
- 22 Stability

23	Forces in soft tissues of the human body
24	Ergonomic principles
25	Requirements for information supplied by the manufacturer
25.1	General
25.2	Instructions for use
25.3	Labelling
26	Packaging
27	Test report
28	Guidelines for accessible information on assistive products
	Annex A
	Annex B
	Annex C
	Annex D
	Bibliography

②アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

本規格は、2018年、2019年のTC173 総会での意見を踏まえ原案を作成しなおし、ISO/TC173/SC7 に新規案件として提案を行った。規格番号は NP6273。12月7日に投票が開始され、2021年3月1日に投票が締め切られる。

なお本件のタイトルは、第2回 TC173/SC7 国内検討委員会において、「福祉用具ー感覚機能に障害のある人のための福祉用具のユーザーニーズ調査のためのガイドライン (Assistive products – Guidelines for user needs survey of assistive products for persons with impaired sensory function) に変更することで承認された。

規格内容の構成案は、以下のとおりである。

ISO/NP 6273 Assistive products – Guidelines for user needs survey of assistive products for persons with impaired sensory functions
Foreword
Introduction
1 Scope
2 Normative references
3 Terms and definitions
4 General
4.1 Management of research process
4.2 Types of survey data
5 Data collection
5.1 General
5.2 Written questionnaires

5.3 Interviews and focus group

6 Types of user needs for assistive products

6.1 General

6.2 User needs for existing assistive products

6.3 User needs for new assistive products

7 Accessibility requirements for survey with persons with impaired sensory function

7.1 General

7.2 Accessibility Principles in questionnaire and interview

Annex A (informative) Clear Print Guidelines

Bibliography

3.2 TC159/WG2/SC3、SC4 及び SC5 における共通基盤規格

本事業では、共通基盤規格（人間工学的手法に基づく、製品等の種類によらず横断的に適用可能なアクセシブルデザイン規格）の開発を行ってきている。JIS（日本産業規格）及び本事業における実験・調査結果をもとに、ISO/TC159(人間工学)WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)、TC159/SC4(人間とシステムのインタラクション) 及び同 SC5（物理的環境の人間工学）に対して国際標準化を提案してきた。

これまで下記 8 件の規格を提案し、令和元年度までに発行されている。

- ①ISO 24500 “Ergonomics - Accessible design - Auditory signals for consumer products”
(JIS S 0013 高齢者・障害者配慮設計指針-消費生活製品の報知音)
- ②ISO 24501 “Ergonomics - Accessible design - Sound pressure levels of auditory signals for consumer products”
(JIS S 0014 高齢者・障害者配慮設計指針-消費生活用製品の報知音-妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル)
- ③ISO 24502 “Ergonomics-Accessible design-Specification of age-related luminance contrast for coloured light”
(JIS S 0031 高齢者・障害者配慮設計指針-視覚表示物-色光の年代別輝度コントラストの求め方及び光の評価方法)
- ④ISO 24503 “Ergonomics - Accessible design - Tactile dots and bars on consumer products”
(JIS S 0011 高齢者・障害者配慮設計指針-消費生活製品の凸点及び凸バー)
- ⑤ISO 24504 “Ergonomics - Accessible design - Sound pressure levels of spoken announcements for products and public address systems”
(JIS 未提案 人間工学-アクセシブルデザイン-製品及び場内放送設備の音声アナウンスの音圧レベル)
- ⑥ISO 24505 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision”
(JIS S 0033 高齢者・障害者配慮設計指針-視覚表示物-年齢を考慮した基本色領域に基づく色の組合せ方法)
- ⑦ISO 24508 “Ergonomics-Accessible design-Guidelines for designing tactile symbols and characters”
(JIS S 0052 高齢者・障害者配慮設計指針-触覚情報-触知図形の基本設計方法)
- ⑧ISO/TR 22411:2008 “Ergonomics data and guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71 to products and services to address the needs of older persons and persons with disabilities”
(高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学的データ及び指針)

これに続き、令和 2 年度は、同 TC159/WG2/SC3、SC4 及び SC5 に提案した下記 5 件の規格案の審議を進めた。

- ①NP 24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations

- Part2: For people with defective colour vision and low vision” (色の組み合わせ方法：色弱とロービジョン)
- ②WI 24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part3:General guidance on the use of colour-combination standards (tentative)” (色の組み合わせ方法：一般通則)
 - ③CD 23979 “Ergonomics - Accessible design - Ease of operation” (消費生活用製品の操作性)
 - ④WI TR 22411-1 “Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014ISO/IEC Guide 71:2014” (ISO/IEC ガイド 71：2014 適用のための人間工学データ集)
 - ⑤WI TR 22411-2 “Ergonomic design considerations for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014” (ISO/IEC ガイド 71：2014 適用のためのデザインガイドライン (仮称))

以下に、これらの個別の規格案について、令和2年度の作業実績を報告する。

- ①NP 24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part2: For people with defective colour vision and low vision” (色の組み合わせ方法：色弱とロービジョン)

本規格案は、すでに発行された ISO 24505 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision” 「色の組合せ方法：加齢効果」の Part2。色弱とロービジョンの色の組合せ法の提案。PL (プロジェクトリーダー) は伊藤納奈 (産総研)。ISO セクレタリより ISO24505：2016 のタイトル変更せずに Part2 の NP (新規課題) 提案は可能との意見を得たため、2020年5月19日に SC5 (第5分科委員会) セクレタリに Part2 の NP 提案書類を送付。7月29日付で “新規案件の Registered (登録済)” となっていたが、11月21日付で NP 投票が開始された。締め切りは2021年2月14日。

また、ISO 24505 Part1 についてはタイトル変更 23979 のための FDIS (最終国際規格案) 投票を今後行う予定。8月4日に修正原案とタイトル変更の希望のコメントをつけて SC5 セクレタリに送付し、現在では FDIS 投票の登録済みの状態となっている。

現時点での FDIS の規格案の構成は、以下のとおりである：

Part 2：色弱とロービジョン

Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part 2: For people with defective colour vision and people with low vision

- 1 Scope
- 2 Normative references
- 3 Terms and definitions
- 4 General
 - 4.1 Application criteria for defective colour vision and low vision
 - 4.2 Viewing modes and conditions
- 5 Colour combinations for protanopia and deuteranopia
 - 5.1 General
 - 5.2 Protanopia

5.2.1	Table of two-colour combinations and their conspicuity for protanopia
5.2.2	Spans of fundamental colours for protanopia (Span1).
5.3	Deutanopia
5.3.1	Table of two-colour combinations and their conspicuity for deutanopia
5.3.2	Spans of fundamental colours for deutanopia (Span 1)
6	Colour combinations for low vision
6.1	General
6.2	Table of two-colour combinations and their conspicuity for people with low vision
6.3	Spans of fundamental colours for people with low vision (Span1).
7	Procedures to create a colour combination for people with defective colour vision and people with low vision
Annex A (informative)	Description and classification of defective colour vision, and the data sources for fundamental colour spans adopted in this document
Annex B (informative)	Description of low vision and the data source for fundamental colour spans adopted in this document
Bibliography	

②WI 24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part3:General guidance on the use of colour-combination standards” (tentative) (色の組合せ方法：一般通則)

本規格案は先の Part2 に続く IS024505：2016 の Part3。色の組合せ法の一般通則の提案。PL は伊藤納奈（産総研）の予定。昨年度の第2回 SC5/WG5（第5作業部会）会議で若齢者・高齢者・色弱・ロービジョン全てに共通な色の基本色領域について議論を行った。引き続き提案準備を行い、Part2 の提案後に素案作成を開始する。

③CD 23979 “Ergonomics - Accessible design - Ease of operation”（消費生活用製品の操作性）

製品の操作性に関わるアクセシブルデザインの規格。旧 JIS S0012（高齢者・障害者配慮設計指針—消費生活製品の操作性）の項目のうち、製品の操作に係る項目を参照し、以下に示す基本原則と動作・運動に関する2つの要求事項から構成される。PLは佐川賢（産総研）。

- i 多種の利用者、複数操作方式、などのアクセシビリティ基本原則
- ii 操作に必要な各動作・運動（持つ、運ぶ、回す、押す、届く、など）に適した操作部の形状や力（強度）の基準（数値基準は例として掲載）

2020年1月にCD(委員会原案)を作成しSC3(第3分科委員会)に提出した。2020年1月23日にCD投票開始、3月20日に投票が締め切られ(賛成14うちコメント付き4、反対1(独)、棄権8)可決された。

その後、9月14日、15日及び11月9日、10日の2回にわたる SC3/WG4 オンライン会議で、コメントに対する対応と DIS（国際規格案）原案を審議した。2021年2月22日、23日に予定されているオンライン会議でコメント対応と DIS 原案の承認後、DIS 投票に向かう予定。

現時点での規格案の構成は、次のとおりである：

Ergonomics—Accessible design —

Ease of operation

- 1 Scope
 - 2 Normative references
 - 3 Terms and definitions
 - 4 General requirements
 - 4.1 Location and layout of a control or a control panel
 - 4.2 Force required for operation
 - 4.3 Dexterity
 - 4.4 Avoidance of simultaneous multiple operations
 - 4.5 Provision of multiple means of operation
 - 4.6 Provision of feedback
 - 4.7 Logical process
 - 4.8 Safety and failsafe
 - 4.9 Others (assembling, installation, storage, maintenance, etc)
 - 5 Ergonomic requirements for ease of operation
 - 5.1 Holding, lifting, carrying, and pushing or pulling by hands
 - 5.1.1 Shape and size of a product
 - 5.1.2 Weight to hold, to lift, and to carry
 - 5.1.3 Strength to push and to pull by hand(s)
 - 5.2 Rotating, twisting, gripping, grasping, pushing or pulling (by fingers), sliding and touching
 - 5.2.1 Shape and size of product or a control
 - 5.2.2 Strength
 - 5.3 Reach range
 - 5.3.1 Height of a desktop for a product, a control or a control panel
 - 5.3.2 Reach range of the upper limb
 - 5.3.3 Useful field of view for finding a product, a control and a control panel
- Annex A (informative) Design items to consider accessibility of products with regard

to ease of operation

Annex B (informative) Reference data on human physical characteristics and strength for actions required for operation of a product

Bibliography

④WI TR 22411-1 “Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014ISO/IEC Guide 71:2014” (ISO/IEC ガイド 71 : 2014 適用のための人間工学データ集)

2008年に発行された同 TR (技術報告書) の第2版を作成する。ISO/IEC ガイド 71 改訂版の内容を反映させるとともに、これまでの事業で実施した国内実験及び国際比較実験の結果を TR の Part1 として標準データを盛り込む。PL は佐川賢 (産総研)。

ISO/PRF TR 22411 (DTR (技術報告書原案) 投票) が 2020年11月25日に終了した。反対はカナダ1ヶ国だけであり、投票自体は可決した。各国から提出された編集的なコメントに対応して原案を修正し、2021年1月12日付で「ISO/TR 22411 : 2021 - Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71 : 2014」のタイトルで発行に至った。ただし当初、本 TR 第2版では、本文中の図の説明文を Annex (附属書) として付け、ハイパーリンクを施す計画であったが反映できなかったため、今後 “Part1” としてのタイトル変更及びリンク追加を改正案として提案する予定。

規格案の構成は、次のとおりである：

Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014

- 1 Scope
- 2 Normative references
- 3 Terms and definitions
- 4 Supporting ISO/IEC Guide 71 with human data
- 5 Data selection and format
 - 5.1 Data selection
 - 5.2 Data format of this document
 - 5.3 How to use the data
- 6 Sensory characteristics and capabilities
 - 6.1 Overview of sensory characteristics and capabilities
 - 6.2 Vision
 - 6.2.1 Visual sensitivity to colour (spectral sensitivity of the eye: ageing effect)
 - 6.2.2 Colour category (spans of fundamental colour, young people, older people, and people with low vision)
 - 6.2.3 Colour category (international comparison)
 - 6.2.4 Contrast sensitivity (young people, older people and people with low vision)

- 6.2.5 Contrast for legibility (ageing effect)
- 6.2.6 Visual acuity (effects of age, viewing distance and luminance)
- 6.2.7 Minimum font size for legibility (effects of age, viewing distance and luminance)
- 6.2.8 Minimum font size for legibility (international comparison)
- 6.2.9 Minimum font size for legibility (low vision)
- 6.2.10 Disability glare (ageing effect)
- 6.2.11 Useful field of view (ageing effect)
- 6.2.12 Lighting level and visual performance (ageing effect)
- 6.2.13 Visibility of an indicator lamp: Context and task specific data (effects of ageing and low vision)
- 6.3 Hearing
 - 6.3.1 Hearing-sensitivity decrease as a function of age
 - 6.3.2 Tone perception in quiet conditions (ageing effect)
 - 6.3.3 Sensitivity to low-frequency tones (ageing effect)
 - 6.3.4 Equal-loudness-level contours (ageing effect)
 - 6.3.5 Tone perception in noisy conditions (ageing effect)
 - 6.3.6 Sound pressure level of spoken announcements in public space (ageing effect)
 - 6.3.7 Audible conditions for speech communication in a noisy environment (ageing effect)
- 6.4 Touch
 - 6.4.1 Tactile pressure sense and spatial resolution (ageing effect)
 - 6.4.2 Tactile spatial resolution (people with visual disabilities)
 - 6.4.3 Tactile spatial resolution (body location and ageing effect)
 - 6.4.4 Tactile temporal resolution (sensitivity to vibration, ageing effect)
 - 6.4.5 Legibility of tactile symbols and characters (effects of ageing and experience in the use of tactile symbols and characters for people with visual disabilities)
 - 6.4.6 Legibility of tactile symbols and characters (international comparison)
- 6.5 Thermal sense
 - 6.5.1 Surface temperature (ageing effect)
 - 6.5.2 Air temperature (ageing effect)
 - 6.5.3 Thermal comfort (physical disabilities)
- 7 Physical characteristics and capabilities
 - 7.1 Overview of physical characteristics and capabilities
 - 7.2 Physical characteristics related to body size
 - 7.2.1 Basic body size (design range from small to large size)
 - 7.2.2 Grip diameter (ageing effect)
 - 7.3 Movement - fine hand use abilities
 - 7.3.1 Hand steadiness (ageing effect)

- 7.3.2 Eye-hand coordination (dexterity, ageing effect)
- 7.4 Movement - functions of upper body structure
 - 7.4.1 Reach range (effects of ageing and stature)
 - 7.4.2 Reach range (grasp ability, female 5th percentile of body size)
 - 7.4.3 Reach range in three dimensions of height, forward distance (depth), and left-right width for older people and people with disabilities (rheumatism and Parkinson' s disease)
 - 7.4.4 Rotation: pronation and supination (ageing effect)
- 7.5 Movement - Functions of lower body structure
 - 7.5.1 Step height (ageing effect)
 - 7.5.2 Step height: Subjective evaluation of physical load (ageing effect, international comparison)
 - 7.5.3 Tread depth of stairs (ageing effect)
 - 7.5.4 Walking speed (ageing effect)
 - 7.5.5 Slope of ramps and wheelchair operation (physical disabilities)
- 7.6 Muscle strength and muscle endurance
 - 7.6.1 Grip force of the hand (ageing effect)
 - 7.6.2 Pressing force of the thumb
 - 7.6.3 Compressive force of the index finger
 - 7.6.4 Operating torque in four different conditions
 - 7.6.5 Grip strength (ageing effect)
 - 7.6.6 Lifting strength (gender effect)
 - 7.6.7 Lifting strength (effects of age and gender)
 - 7.6.8 Pushing force with two hands (ageing effect)
 - 7.6.9 Pulling force with one hand (ageing effect)
 - 7.6.10 Pushing force with a finger (ageing effect)
 - 7.6.11 Static torque with two hands (ageing effect)
 - 7.6.12 Torque and force for opening packages (effects of ageing and disabilities)
 - 7.6.13 Jar opening (perceived effort, older women)
 - 7.6.14 Upper extremity muscle strength (ageing effect)
- 8 Cognitive characteristics and capabilities
 - 8.1 Overview of cognitive characteristics and capabilities
 - 8.2 Attention
 - 8.2.1 Selective attention (selective listening, effect of age)
 - 8.2.2 Dual task performance (task complexity, ageing effect)
 - 8.2.3 Memory under dual task conditions (effects of dual tasks and ageing)
 - 8.3 Information processing
 - 8.3.1 Processing speed and capacity

8.4 Memory 140

8.4.1 Effects of ageing and cognitive disabilities on memory

8.5 Language and literacy

8.5.1 Language use (ageing effects)

Annex A (informative) Additional textual descriptions of figures

⑤WI TR 22411-2 “Ergonomic design considerations for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014” (ISO/IEC ガイド 71 : 2014 適用のためのデザインガイドライン (仮称))

2008年に発行された同TR(技術報告書)の第2版のPart 2としてデザインガイドラインを盛り込む。今年度は2020年5月14日、7月6日、9月24日、2021年1月19日にWG2オンライン会議を実施した。日本からPart 2の全体構成案の詳細を提案し、それに合わせた現行TR 22411とISOガイド71の内容からデザインガイドラインに関わる情報収集状況を説明した。2021年3月18日、19日に開催予定のTC159総会でPart 2のタイトルや構成について説明し、正式な業務項目として承認を得ることを予定している。

3.3 欧州連携

TC173 及び TC159 の各オンライン国際会議において欧州等各関係機関等と連携を図り、日本提案の AD 規格案件に対する説明及び議論の整理を行った。

TC173 においては、TC173 専門委員会名称及び、SC7 分科委員会名称、スコープ等の変更に伴い、現在提案中の規格及び新規の提案規格内容の見直しなどが行われ、より緊密な連携と情報共有が必須であった。TC173 のシクレタリに、メール等で情報提供や現状報告を求め、我が国の提案事項がスムーズに運ぶよう理解を求めた。その結果、「ISO/CD 21856 Assistive products - General requirements and test methods (一般通則と試験方法)」の「25.2 Instructions for use (取扱説明)」と附属書 D に追加する件については、予定より早く発行に至った。

提案内容の再検討が必要であった「アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針 (Accessible design - Guidelines for surveys of needs of older persons and persons with disabilities)」については、TC173/SC7 のスコープ変更に伴い、「福祉用具ー感覚機能に障害のある人のための福祉用具のユーザーニーズ調査のためのガイドライン (Assistive products - Guidelines for user needs survey of assistive products for persons with impaired sensory function) として新規提案し、2021年3月の投票締め切りを受け各国からのコメントを含めた審議の準備等を行う。

TC159 については、2021年6月に開かれる国際人間工学会 (IEA 2021) で開催されるワークショップ (Different approaches for inclusive design) と、スペシャルセッション (Design for Disabled) に参加の依頼があり、TC159 のアクセシブルデザインの規格や標準化活動について紹介する予定である。

附属資料：

附属資料 1. (1)及び(2) AD国際標準化委員会(本委員会)議事録 (第1回、第2回)

附属資料 2. (1)及び(2) TC159 国内検討委員会議事録 (第1回、第2回)

附属資料 3. (1)及び(2) TC173/SC7 国内検討委員会議事録 (第1回、第2回)

附属資料 1. (1) 第 1 回 AD 国際標準化委員会(本委員会)議事録

1. 日 時: 令和 2 年 9 月 14 日(月)10 時 00 分～11 時 00 分

2. 場 所: 共用品推進機構 会議室

3. 出席者:

(オンライン会議システム Webex にて出席)

委員: 14 名、関係者: 8 名、事務局: 6 名(オンライン出席者計 28 名)

(対面会議中止のため書面審議にて出席委員 1 名)

4. ご挨拶: 経済産業省国際標準課

5. 委員紹介: 今年度委員の紹介を行った。

6. 委員長選出: 出席委員より委員長を選出し、選出された委員がこれを了解し委員長に就任した。

7. 議 事

(1) 報告事項・検討事項

1) 令和 2 年度全体事業計画について

事務局が資料 1-2 を基に説明を行った。

2) 各事業計画(案)について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

① ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)の 25.2 Instructions for use(取扱説明)及び Annex

事務局が資料 1-4 を基に報告を行った。

委員: DIS 段階なので記述内容の変更等はないと思うが、現時点で日本からの提案の記載内容はすべて反映されているのか伺いたい。

事務局: 内容はすべて反映されている。

委員: 了解した。

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

② アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

事務局が資料 1-5 を基に報告を行った。

委員長: 本件のスケジュールや手順や参加国への調整も行っていただきたい。

事務局: 承知した。

(事務局: 参加国が少ない場合はエキスパート 4 か国で大丈夫である。)

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

2)-2 TC159/SC4 及び SC5 関連事業

① WI 24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part2: for people with colour deficiencies and for people with low vision”(高齢者・障害者配慮設計指針—視覚表示物—色の組合せ方法—第2部: 色弱とロービジョン)

② WI 24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations - Part3: General guidance on the use of colour - combination standards“(高齢者・障害者配慮設計指針—視覚表示物—色の組合せ方法—第3部: 色の組合せ方法規格の使用に関する一般通則)

事務局が資料 1-6 を基に SC5 及びシステムティックレビューの見直しについての報告を行った。

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

③ISO/DIS 24509 “Ergonomics - Accessible design - Minimum legible font size for people at any age“(高齢者・障害者配慮設計指針—視覚表示物—日本語文字の最小可読文字サイズ推定方法)

④ISO/DIS 24550 “Ergonomics - Accessible design - Indicator lamps on consumer products“(消費生活用製品の報知光)

⑤ISO/DIS 24509 “Ergonomics - Accessible design - Voice guides for consumer products(消費生活用製品の音声案内)

⑥ISO/NP 23979 “Ergonomics - Accessible design - Ease of operation(消費生活用製品の操作性)

事務局が資料 1-6 を基に SC4 及び SC3 についての報告を行った。

委員:コメントがいろいろと出ていると聞いたが一つくらい紹介していただきたい。

事務局:ドイツから、既存の規格との重複回避について、カナダから order、disability は使わないようにすること、日本からは shall を should に変える、その他、データ不足、欧州のデータとの差についての記述の仕方の検討などがあつた。

委員:欧米と日本との違いについて懸念があつたが特に致命的なものがなく安心した。ただ差別用語については十分な使い方の検討が必要で今後も意識しておいた方がよいと思う。

事務局:承知した。

その他、本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

⑥TR 22411 第 2 版—第 1 部:ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のための人間工学データ集

⑦TR 22411 第 2 版—第 2 部:ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデザインガイドライン(仮称)

⑧アクセシブルデザイン—消費生活用品のアクセシビリティ評価方法

事務局が資料 1-6 を基に報告を行った。

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

⑨他国提案のAD関連規格(SC4/WG10)

事務局が資料 1-6 を基に報告を行った。

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

3)その他

委員:CENとの関係について、英国はEUを離脱しているが、動きとしてISOへの大きな影響はあるか。

事務局:特にはないと認識している。

委員:了解した。

委員:障害当事者へのアンケート調査の規格についての報告は年度内にあるのか。

事務局:第2回目(2月開催予定)の委員会で報告する予定である。

委員:了解した。

・書面審議を行った委員(1名)については、すべての審議事項については異議がない旨確認した。

8. 次回委員会

2021(令和3)年2月4日(木)10時~12時

(3)配布資料:

第1回AD国際標準化委員会(本委員会)配布資料 20200914 開催資料一式

AD国際本資料 1-1: 令和2年度第1回AD国際標準化委員会(本委員会)議事次第

AD国際本資料 1-2: 令和 2 年度共用品国際標準化実施計画書

AD国際本資料 1-3: AD国際標準化委員会(本委員会)委員名簿

AD国際本資料 1-4: ISO/DIS/21856 Assistive products - General Requirements and test methods
(一般通則と試験方法) Annex D

AD国際本資料 1-5: アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

AD国際本資料 1-6: TC159 における国際標準化 進捗状況と令和 2 年度計画案

AD国際本資料 1-7: 基本色領域に基づく色の組合せ方法パート 2(本文)

AD国際本資料 1-8: 消費生活用製品の操作性(本文)

附属資料 1. (2)第 2 回AD国際標準化委員会(本委員会)議事録

1.日 時:令和 3 年 2 月 4 日(月)10 時 00 分～11 時 05 分

2.場 所:共用品推進機構 会議室

3.出席者:

(オンライン会議システム Webex にて出席)

委員:18 名、関係者: 7 名、事務局:6 名(オンライン出席者計 31 名)

4.議 事

(1)報告・検討事項

1)令和 2 年度全体事業報告について-AD 国際標準化成果報告書構成(案)

事務局が資料 2-2 を基に説明を行った。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

2)各事業報告(案)について

2)-1 TC173/SC7関連事業

①ISO/DIS 21856 “Assistive products - General requirements and test methods”(一般通則と試験方法)の 25. 2 Instructions for use(取扱説明)及びAnnex D

事務局が資料 2-4 を基に説明を行った。

委員より、本件は JIS 作成の頃より参加しており、大変重要な規格であるため、JIS の重要ポイントが国際規格の本文に生かされて活用されることに感謝し、国内外で普及していくこと望む旨の発言があった。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

②アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

事務局が資料 2-5 を基に説明を行った。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

2)-2 TC159/SC4及びSC5関連事業

①NP24505-2“Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part2: For people with defective colour vision and low vision(色の組み合わせ方法:色弱とロービジョン)

事務局が資料 2-6 を基に説明を行った。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

②WI24505-3“Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part3:General guidance on the use of colour-combination standards (tentative)(色の組合せ方法:一般通則)

事務局が資料 2-7 を基に説明を行った。

委員:基本色の領域について、マンセル値などユーザが使える具体的なものか。規格内の図や表から読み取ることが難しい場合があるのでアプリなど使いやすいものがあると良い。

事務局:マンセルの円状に彩度、明度が分かるようになっているがマンセル値の列挙ではない。産総研ではデータベースを作成しているので、ご指摘の部分はデータベースなどで反映できるよう検討する。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

③CD 23979“Ergonomics — Accessible design — Ease of operation ”(消費生活用製品の操作性)

事務局が資料 2-8 を基に説明を行った。

委員:資料 2-8(P11)の ii の基準はどこから引用されているのか。

事務局:旧 JISS0012、TR22411 などからである。他の情報については確認し別途知らせる。

委員:TC159(人間工学)のアクセシビリティに関するスコープについて共有いただきたい。在宅介護の規格作成など、他の規格作成において参考にしたい。

事務局:関連するスコープについては整理して後程、知らせる。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。照会のあった事項については議事録に記載することで了解された。

④WI TR 22411—1“Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014 ISO/IEC Guide 71:2014”(ISO/IEC ガイド71:2014適用のための人間工学データ集)

事務局が資料 2-9 を基に説明を行った。

委員:カナダの反対理由をうかがいたい。

事務局よりデータの偏りに対する指摘とその対応などについての報告があったが、詳細については再度コメントを確認し、議事録に記載することで了解された。

事務局:当該 TR を母国語で発行した国はあるか。日本でも発行されればと思う。

事務局:現時点では母国語(各国の公用語)で発行したという情報は得ていない。日本での発行については一緒に検討して頂ければと思う。

事務局:承知した。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

⑤WI TR 22411—2“Ergonomic design considerations for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014”(ISO/IEC ガイド71:2014適用のためのデザインガイドライン(仮称))

事務局が資料 2-10 を基に説明を行った。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

3)その他

①欧州連携(資料 2-4 から資料 2-10 の参考)

事務局が資料 2-11 を基に説明を行った。

本件について出席委員に諮ったところ異議なく承認された。

②本事業の成果報告書について

事務局が、成果報告書の確認については委員長にお願いしたい旨、議場に諮ったところ、異議なく承認され、委員長もこれを承諾した。

閉会に際し、経済産業省ご担当者よりご挨拶をいただいた。

【委員会後の情報提供】

①CD 23979“Ergonomics — Accessible design — Ease of operation ”(消費生活用製品の操作性)の質問についての回答

ISOCD23979 消費生活用製品の操作性で参照または引用している規格は以下の通りである。

- ・ Guide71:2014(ガイド 71)

- TR22411:2008 (高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学的データ及び指針)
- ISO 20282-1:2006 Ease of operation of everyday products –Part 1:Design requirements for context of use and user characteristics (日用品の操作性)、
- IEC 63008: 2020 Household and similar electrical appliances - Accessibility of control elements, doors, lids, drawers and handle (家電製品のドア・蓋・引き出し・ハンドルなど)
- EN 301 549 v3.1.1: 2019 Accessibility requirements for ICT products and services(情報機器のアクセシビリティ)
- ISO 9241-112 Ergonomics of human-system interaction – Part 112: Principles for the presentation of information (情報提示の原則, operation の定義)

② 1 5 9 アクセシビリティ関連の S c o p e の例について

発行済みのもの (審議中や未発行のものでない) を A1 から A3 の通り紹介する。

A1:ISO24500 Ergonomics -- Accessible design -- Auditory signals for consumer products (報知音)

This International Standard specifies the auditory signals used as a means of feedback for operations or conditions of consumer products when used by a person with or without visual or auditory impairment. It is intended to be applied as appropriate to such products depending on the product type and its conditions of use.

It is applicable to auditory signals of a fixed frequency used in general applications (also called “beep sounds”), but not to variable frequency or melodic sounds.

It does not specify fire or gas leak alarm sounds or crime prevention alarm sounds (determined by other laws and regulations), electronic chimes, voice guides or other sounds particular to communication instruments such as telephones; nor is it applicable to auditory danger signals for public or work areas (covered in ISO 7731, ISO 8201, and ISO 11429).

It is not applicable to machines and equipment used for professional work; nor does it specify the sound pressure levels of auditory signals from the consumer products.

NOTE For the determination of these levels, taking into consideration accessible design, see ISO 24501.

A2:ISO24550 Ergonomics – Accessible design – Indicator lights on consumer products (報知光)

This document specifies design requirements and recommendations for indicator lights, mainly LED sourced, on consumer products for use by older people and people with visual disabilities. It does not consider the needs of persons who are blind.

Indicator lights include those that inform users visually about the conditions, changes in functional status and settings, and malfunction of products. They convey information by light on/off, time-modulated intensity, blinking, colour, luminance level, and layout.

This document addresses household and home appliances. It excludes electronic displays presenting characters and graphics, machinery, and appliances in special use for professional, technical, and industrial applications.

A3:ISO24551 Ergonomics – Accessible design – Spoken instructions of consumer products(音声案内)

This document specifies ergonomic requirements and recommendations for consumer product

spoken instructions that are provided to guide users in the operation of a product and/or as a means of providing feedback to users about the status/state of a product. Such instructions can be used by persons with or without visual impairments, and are useful for users who have difficulty reading and/or cognitive impairments.

The applicability of the requirements and recommendations described in this document does not depend on the language of the instructions or whether the instructions are provided via recorded human speech or synthesized speech from text.

The requirements and recommendations in this document are applicable to conventional, stand-alone consumer products in general, whose function is limited by characteristics that prevent a user from attaching, installing or using assistive technology in order to use the product. They are not applicable to machines and equipment used for professional work.

This document does not apply to products for which the instructional content and/or the means of presentation are specified in other standards (e.g. medical devices, fire alarms). It also does not provide recommendations or requirements for spoken instructions of Interactive Voice Response (IVR) systems or digital assistants on personal computers or similar devices.

NOTE ISO 9241-154 provides recommendations or requirements for IVR systems.

This document does not specify voice sounds of text-to-speech systems or narrative speech used in place of printed instruction manuals and independently from the product.

③ TR 22411 : 2021 の投票の主な意見

カナダからの意見は以下の通りである。

CANADA1 : 身体機能の 7.6 に、高齢者のバランス保持のデータがない。

CANADA2 : 加齢や障害のサンプルデータで特殊な国に偏っている。

5. 配布資料:

第 2 回 AD 国際標準化委員会(本委員会)配布資料

- AD 国際本資料 2-1: 令和 2 年度第 1 回 AD 国際標準化委員会(本委員会)議事次第
- AD 国際本資料 2-2: 令和 2 年度 AD 国際標準化成果報告書構成(案)
- AD 国際本資料 2-3: AD 国際標準化委員会(本委員会)委員名簿
- AD 国際本資料 2-4: ISO/DIS 21856 “Assistive products - General requirements and test methods”
(一般通則と試験方法)の 25.2 Instructions for use(取扱説明)及び Annex D
- AD 国際本資料 2-5: アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針
- AD 国際本資料 2-6: NP24505-2 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part 2: For people with defective colour vision and low vision(色の組み合わせ方法:色弱とロービジョン)
- AD 国際本資料 2-7: WI24505-3 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations Part 3: General guidance on the use of colour-combination standards (tentative)(色の組合せ方法:一般通則)

-AD 国際本資料 2-8:CD 23979“Ergonomics — Accessible design — Ease of operation ”(消費生活用製品の操作性)

-AD 国際本資料 2-9:WI TR 22411—1“Ergonomics data for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014ISO/IEC Guide 71:2014”(ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のための人間工学データ集)

-AD 国際本資料 2-10:WI TR 22411—2“Ergonomic design considerations for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014”(ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのデザインガイドライン (仮称))

-AD 国際本資料 2-11:欧州連携(資料 2-4 から資料 2-10 の参考)

(別添資料)

参考資料 1: 第 1 回議事録

参考資料 2: (google 翻訳) Guidelines for user needs survey of assistive products

附属資料 2. (1) 第 1 回 TC159 国内検討委員会議事録

1. 日 時：令和 2 年 9 月 17 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分

2. 場 所：国立研究開発法人産業技術総合研究所

3. 出席者：

（オンライン会議システム Webex にて出席）

委員：14 名、関係者：6 名、事務局 6 名、（オンライン出席者計 26 名）

4. 事務局が委員関係者を名簿より紹介

5. 委員長選出

6. 議 事

(1) 報告事項

1) 令和 2 年度全体事業計画について

資料 1-3 にもとづいて、事務局が説明した。

2) 各事業計画（案）について

資料 1-4 に基づき各項目ごとに報告と議論を行った。事務局が説明した。

①高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－基本色領域に基づく色の組合せ方法 2～3（資料 1-5）

②ISO24500 Ergonomics - Accessible design -Auditory signals for consumer products 人間工学－アクセシブルデザイン－消費生活製品の報知音投票結果について（資料 1-6-1, 1-6-2）

③SC4（人間とシステムのインタラクション）/WG10（消費生活用製品のアクセシブルデザイン）

④高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活用製品の操作性（資料 1-7-1, 2, 3）

委員：disability older などが差別用語にあたるようだが、その代わりになるものは何か。

→事務局：special needs や impairment は使用できると聞いている。コメント対応の結果をいずれ委員に送付する。

事務局コメント→前回の投票時のカナダのコメントは“the elderly and the physically disabled”ではなく“wide range of human characteristics and capabilities and limitations”を勧める内容であった。日本からは“Elderly”は使わず、“limited abilities”とすることを回答している。

⑤TR 22411 高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学的データ及び指針（第 2 版）

事務局：パート 1 の再投票が必要となったため、委員に審議依頼をする予定。

(2) 検討事項

1) 各事業の内容及び令和 2 年度の計画について

資料 1-4 に基づいて事務局が説明した。

委員：TR 22411 パート 2 は以前ドイツ提案になると聞いていたが、日本提案になったのか？

→事務局：ドイツは最近までパート 1 の作業をしており、パート 2 に着手できていないため、日本で情報などを整理し素案を作っている状況である。ある程度日本も作ることになるだろう。共同提案の可能性が高いと考えている。

2) その他

・各国提案の AD 関連企画

資料 1-4 にもとづいて事務局が説明した。

・今後の TC159 会議予定

資料 1-4 に基づいて事務局が説明した。

・ISO 24500:2010 の定期見直し投票について

資料 1-6-1, 2 に基づいて事務局が説明した。来年度 JIS の改正を先行し、それを待って ISO の改定を提案する。

委員：ISO の会議はコロナの影響で遅れが生じているのか？

→事務局：会議はオンラインで進めているので、特に遅れているわけではない。

SC5 のセクレタリの手続きが遅れることが多いが、コロナ以前からである。

・第 2 回 TC159 国内検討委員会について

改めてメールで委員のスケジュールを確認する。

(3) 配布資料：

TC159 国内資料 1-1：議事次第

TC159 国内資料 1-2 : TC159 国内委員会委員名簿
TC159 国内資料 1-3 : 令和 2 年度国際標準化実施計画書
TC159 国内資料 1-4 : TC159 における国際標準化_進捗状況と令和 2 年度計画案
TC159 国内資料 1-5 : 基本色領域に基づく色の組合せ方法パート 2 (本文)
TC159 国内資料 1-6-1 : ISO 24500 システムティックレビュー投票結果
TC159 国内資料 1-6-2 : ISO 24500 システムティックレビューJISC からのコメント
TC159 国内資料 1-7-1 : 消費生活用製品の操作性 国内委員会用説明資料
TC159 国内資料 1-7-2 : 消費生活用製品の操作性 (本文)
TC159 国内資料 1-7-3 : 消費生活用製品の操作性 (コメントシート)
TC159 国内資料 1-8 : ISO TR 22411-1_人間工学データ_国内委員会説明資料

附属資料 2. (2) 第 2 回 TC159 国内検討委員会議事録

1. 日 時: 令和 3 年 1 月 26 日 (火) 13 時 30 分～15 時 30 分

2. 場 所: 国立研究開発法人産業技術総合研究所

3. 出席者:

(オンライン会議システム Webexにて出席)

委員: 12名、関係者6名、事務局6名(オンライン出席者計24名)

逝去の委員の報告と黙とうを行った。

4. 議 事

(1) 報告事項

1) 各事業の進捗状況について

資料 2-4 に基づき各項目ごとに報告と議論を行った。事務局が説明した。

① ISO24505-2 高齢者・障害者配慮設計指針－視覚表示物－基本色領域に基づく色の組合せ方法 2～3(配布資料 2-5-1.2)

事務局: 国内委員会では承認投票とコメント受付を終了しているが、未回答の団体がいくつかあるので、この場で可否を聞きたいと思う。

委員: 現在投票の状態はいかがか?

→事務局: 過半数は可。否および棄権はない。

数団体: この場で可に投票する。

全員: 賛成。

委員: コメントの中に GRE と GRY の表記があるが、ISO 規格では GRY アメリカ英語で統一しているか確認したい。

② →事務局: ISO は基本イギリス英語を使用しているが、パート1に揃える予定。

委員: 色の組み合わせは静止画と動画では見え方が異なると思うが、どのような場合を想定しているか知りたい(要約筆記の例を挙げて文字が白だと黒より青のほうがつかれないと意見)。

→事務局: この色の組み合わせでは特定はしていない。基本的には激しい動きでなければ動くものにも適用できると考える。

(事務局注: 規格内ではその線引きが難しいため動的な表示に対応可能とは記載していない。)

委員のおっしゃる黒、青の背景に白い文字の件は色の組み合わせというよりコントラストの問題なのでここでは述べていない。色の組み合わせは多色を使う例えば電車の路線図などでどの組み合わせが一番見えやすいかなどを述べている。

委員: 以前にこの路線図でコントラストに関することを発表されていなかったか?

→事務局: コントラストはとても重要な部分なので現在データを収集中である。次回提案したいと考えている。

③ 高齢者・障害者配慮設計指針－消費生活用製品の操作性(配布資料 2-6)

委員: 資料はいつ頃我々に送付される予定か。

→事務局: 2月の会議以降。4月以降の可能性が高い。

④ TR22411 高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学的データ及び指針(第2版)(配布資料 2-7)

委員: ロービジョンは機器および物理的環境の組み合わせによって配慮の内容が大きく左右される。そういったことを盛り込んだ規格は見当たらないので、今回このような全体を扱ったもので扱ってもらえるか。

→事務局: 照明という項目をつくるか視覚障がい者への配慮という項目をつくるかなど具体的なことはまだ決めていないが、考慮したい。

委員: これまでの空港バリア・交通バリア等の会議で人間工学の関係の動作等検討してきた。今載っているコメントの動作等の例を参照しているが、どこから参考しているか知りたい。

→事務局: どこから参照しているか調べる。

委員: それは必要なので、探してありましたら必ず提供してほしい。

→事務局: 承知した。

事務局:改訂前のガイド71にあった配慮点のマトリックスがなくなっている。TR パート2にマトリックスに対応する要素を入れるという理解で良いか? そうした場合、TR は、規定を盛り込めないと理解しているが、今までのアクセシブルデザイン関係の ISO の規格とどのような関係でいくか? また、チェックシートを ANNEX にした場合 TR となじむのかどうか確認したい。

→事務局:掲載情報の判断基準はガイド71(旧, 新)と2008年度版 TR から集めている。個別規格は引用のみとし記載は避ける予定。ANNEX に関してはチェックリストとすると TR にふさわしくないかもしれないが、情報を網羅して全体を可視化するのは重要と考えている。リスト的に書き出しはしたいと思う。

→事務局:チェックリスト(全体を網羅したもの)はアクセシブル標準化の最終ゴールに近いように感じる。それを今後 ISO にしていくことも検討したらどうか

→事務局:今後議論していきたいと思う。

(2) 検討事項

- 1) 各事業の内容及び令和2年度の計画について(配布資料 2-4)
- 2) 他国 資料 2-4 に基づいて伊藤が説明した。

5.ご挨拶

経済産業省ご担当者から、来年度も引き続き規格審議への協力を依頼する旨の挨拶があった。

6.配布資料:

TC159 国内資料 2-1:議事次第

TC159 国内資料 2-2:TC159 国内委員会委員名簿

TC159 国内資料 2-3:第1回 TC159 国内検討委員会議事録(案)

TC159 国内資料 2-4:TC159 における国際標準化進捗状況と令和2年度計画

TC159 国内資料 2-5-1:ISO24505-2 基本色領域に基づく色の組合せ方法パート2(本文)

TC159 国内資料 2-5-2:ISO24505-2 基本色領域に基づく色の組合せ方法パート2(コメント)

TC159 国内資料 2-6:消費生活用製品の操作性(本文)

TC159 国内資料 2-7:ISO TR22411-2 デザインガイドライン(仮称)国内委員会説明資料

附属資料 3. (1) 第 1 回 TC173 国内検討委員会議事録

1. 日 時: 令和 2 年 9 月 17 日 (木) 13 時 30 分～14 時 05 分

2. 場 所: 共用品推進機構 会議室(オンライン会議システム Webex)

3. 出席者:

(オンライン会議システム Webex にて出席)

委員: 11 名、関係者: 4 名、事務局 5 名 (オンライン出席者計 20 名)

(対面会議中止のため書面審議にて出席委員: 3 名)

4. ご挨拶: 経済産業省国際標準課

5. 委員紹介: 今年度委員の紹介を行った。

6. 委員長選出: 出席委員より委員長を選出し、選出された委員がこれを了解し委員長に就任した。

7. 議 事

(1) 報告事項・検討事項

1) 令和 2 年度全体事業計画について

事務局が資料 1-3 を基に説明を行った。

2) 各事業計画(案)について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

① ISO/WD/21856 Assistive products - General Requirements and test methods(一般通則と試験方法)

の 25.2 Instructions for use(取扱説明)及び Annex

事務局が資料 1-4 を基に報告を行った。

委員長: ISO 21856 は DIS 段階であると思うが、今後の投票の日程などはどのようになっているか。

事務局: 9 月 14 日に DIS が承認された。10 月 8 日には FDIS が作成され投票が行われる。発行予定日は 2021 年 1 月 23 日である。

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

② アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

事務局が資料 1-5 を基に報告を行った。

委員: 障害当事者としてとてもいい取り組みだと思った。今すでにある福祉機器を発展させていくものなのか、まったく新しいものとして規格を作成するのか。

事務局: 新しい福祉用具も既存の福祉用具も問わず、調査全般についての配慮事項を規定するものである。

委員: 了解した。別の質問であるが、見えない方、盲ろうの方など、今ある福祉機器だけでは十分ではないように思う。その点をどのように解決していくのか考えを教えてください。

事務局: 福祉機器を開発するという点においても、不便を感じている人たちの声が届いていないところがあると思う。もっとこのような配慮が必要であるということが分かるといいと思う。不便を感じている人たちの声を聞くためにこの規格を作成し、活用していただけるようにしたいと考えている。

委員: 了解した。

本件について出席委員に諮ったところ意義なく承認された。

・書面審議を行った委員(3 名)については、すべての審議事項について異議がない旨確認した。

8. 次回委員会

2021(令和 3)年 1 月 25 日(月)13 時 30 分～15 時

(3) 配布資料

第1回 TC173/SC7 国内検討委員会配布資料 20200917 開催

TC173/SC7 資料 1-1: 令和2年度第1回 TC173/SC7 国内検討委員会議事次第

TC173/SC7 資料 1-2: TC173/SC7 国内検討委員会委員名簿

TC173/SC7 資料 1-3: 令和2年度国際標準化実施計画書

TC173/SC7 資料 1-4: ISO/DIS/21856 Assistive products — General Requirements and test methods (一般通則と試験方法) Annex D

TC173/SC7 資料 1-5: アクセシブルデザイン—当事者ニーズ調査配慮事項

附属資料 3. (2) 第 2 回 TC173 国内検討委員会議事録

1. 日 時：令和 3 年 1 月 25 日（月）13 時 30 分～14 時 25 分

2. 場 所：共用品推進機構 会議室（オンライン会議システム Webex）

3. 出席者：（オンライン会議システム Webex にて出席）

委員：13 名、関係者：3 名、事務局：5 名、（オンライン出席者計 21 名）

欠席委員：3 名

4. 議 事

(1) 報告事項・検討事項

1) 各事業計画(案)について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

①アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査共通設計指針

事務局が資料 2-4、委員が参考資料 1 を基に説明を行った。

事務局：タイトルは福祉用具になっているが、UD やアクセシブルデザインにも応用できると思うがどうか。

委員：モノと程度によると思う。一般用品についても適用できる場所も大きいですが、一応感覚機能関連の SC であるためその方面からの読み方を書いた。4、5、6 についてはもっと広い範囲のサービスについても使えるように記述した。（4 General、5 Data collection、6 Types of user needs for assistive products）

事務局：これまでにない新しい規格であると思う。

本件を議場に諮ったところ出席委員より承認された。また、アクセシブルデザインのタイトルを以降、「福祉用具ー当事者ニーズ調査共通設計指針」とすることで了承された。規格案について、後日メールにてコメント募集をする。

②ISO/WD/21856 Assistive products – General Requirements and test methods（一般通則と試験方法）の 25.2 Instructions for use（取扱説明）及び Annex

事務局が資料 2-3 を基に報告を行った。

委員：本規格は FDIS 投票にかかる。DIS の後に改良したため、仕上がりとしては DIS にはなっていない。

否決されることはないと思うが、まだ修正が必要である。publish はするがまだ調整に時間がかかる。

本件を議場に諮ったところ出席委員より報告の内容で承認された。

③定期見直しについて

事務局が資料 2-5 を基に報告を行った。コメント募集はメールにて行う。

委員：規格の英文タイトルについて、同じもの（Assistive products）が 2 回出てきているが、限定しなければならないのか、広範囲にとるものなのか。事務局：あえて繰り返しにしたが、今後検討していきたい。

委員長：TC173 側が意識しているようで、福祉用具の TC ということを強調しているようである。

事務局：スコープの中にアクセシブルデザインを入れると TC173 では作成が難しくなるため、福祉用具のためのということを強調したが、審議の中で変更していくかもしれない。SC7 のメンバーがこの原案で見ているので、投票で承認され、審議が始まった段階で国内委員会からの意見として出せばよいと思う。

委員：在宅介護に使用される機器等のアクセシビリティについて TC314 に提案しようとしている。在宅

介護では医療機器と非医療機器を使う。医療機器にはすでにアクセシビリティに言及した国際標準があり、在宅介護で改めて規定するのに抵抗する人もいるのが現状である。福祉用具分野の場合には車椅子は医療機器でもあり非医療機器でもあるが、医療機器関係者から苦情は来っていないと聞いている。在宅介護に使用される機器等も医療機器か非医療機器ではなく、在宅介護に使用される機器等として扱われるようにしたい。福祉用具における過去の経緯など教えていただきたい。

事務局がアクセシブルデザインを定義した際の経緯を説明した。

本件を議場に諮ったところ出席委員より報告の内容で承認された。TC173/SC7 のエキスパートにご就任いただく方、経済産業省のご担当者よりご挨拶をいただいた。

当該委員会の年度報告内容については、委員長一任で承認された。

規格に対する意見募集については適切な時期に、事務局よりメールにて依頼をさせていただきご回答をいただくことで了解された。

(3) 配布資料

第2回 TC173/SC7 国内検討委員会配布資料 20210125 開催

TC173/SC7 資料 2-1：令和2年度第1回 TC173/SC7 国内検討委員会議事次第

TC173/SC7 資料 2-2：TC173/SC7 国内検討委員会委員名簿

TC173/SC7 資料 2-3：ISO/DIS/21856 Assistive products - General Requirements and test methods
(一般通則と試験方法) Annex D

TC173/SC7 資料 2-4：アクセシブルデザインー当事者ニーズ調査配慮事項

一般財団法人日本規格協会からの再委託で実施したものの成果である。

本件についてのお問合せ先

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-5-4

TEL:03-5280-0020 FAX:03-5280-2373

公益財団法人共用品推進機構 業務部調査研究課

〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1

TEL:029-861-6750 FAX:029-861-6752

国立研究開発法人産業技術総合研究所

(人間情報研究部門 伊藤納奈)

成果報告書の無断転載は固く禁止致します。